

A すきやまるにかいおんひろま 数寄屋丸二階御広間



地震によって、復元した数寄屋丸二階御広間の下部の石垣が一部崩落しました。五階櫓石垣(写真左)も崩落し、石垣上面には地割れが生じています。

B によういしがき 二様の石垣



古い石垣(写真右)に新しい石垣(同左)が築き足された場所で、石垣の美しさを実感できる場所の一つです。新しい石垣の上部に、地震による沈下がみられます。

C れんぞくますがた 連続枘形



竹の丸から飯田丸に向かって6回折れ曲がる通路は、熊本城の防御性の高さを示す場所として知られています。地震によって石垣が崩落し、通路を塞いでいます。

D ながべい 長塀(国指定重要文化財)



坪井川に面して約242m続く長塀。西南戦争のころに一時撤去され、平成28年熊本地震では一部が倒壊しましたが、令和3年(2021)に復旧が完了しました。

E ひがしたけまるじゅうようぶんかざいやぐん 東竹の丸の重要文化財櫓群



単層櫓が連続する景観は、往時の様子をよく示しています。地震によって一部の櫓で建物の傾斜が生じたため、ワイヤーなどで倒壊防止を行っています。

F ほんまるごてんおひろまくらが 本丸御殿大広間(開り通路)



復元した本丸御殿内部では、地震で壁の破損や床の傾斜が生じました。「開り通路」は目立った被害がなく、全国的にも珍しい地下通路をみることができます。

G うとやぐら 宇土櫓(国指定重要文化財)



続櫓は地震で倒壊しましたが、他城郭の天守に匹敵する大きさである五階櫓は漆喰壁や床などが破損しながらも、重要文化財としての威容を保っています。

H にしおおもん 西大手門



地震被害のあった西大手門は解体・保管し、崩落した石材を回収しました。石垣前面にネットやグリ石を詰めたカゴなどを設置して安全対策をしています。

現代			近代			細川家(11代 239年)			加藤家(2代 44年)															
令和3年 (2021)	平成29年 (2017)	平成28年 (2016)	平成10年 (1998)	昭和35年 (1960)	昭和30年 (1955)	昭和25年 (1950)	昭和8年 (1933)	明治22年 (1889)	明治10年 (1877)	明治9年 (1876)	明治7年 (1874)	明治4年 (1871)	宝暦5年 (1755)	寛永17年 (1640)	寛永9年 (1632)	慶長16年 (1611)	慶長12年 (1607)	慶長5年 (1600)	慶長4年 (1599)	天正18年 (1590)	天正16年 (1588)			
●熊本城天守閣復旧完了	●熊本城天守閣本格復旧に着手	●熊本地震で被災	●熊本城復元整備事業始まる	●鉄骨鉄筋コンクリート造で天守を再建	●熊本城全域が特別史跡に指定	●国宝建造物が重要文化財に改称	●石垣・堀が史蹟に指定	●宇土櫓など13棟が国宝に、	●熊本地震(金峰山地震)で被災	●西南戦争。天守本丸御殿などを焼失	●神風連の変	●城内が陸軍用地に編入 ●本丸に熊本鎮台本営が移転	●廃藩置県	●二の丸に藩校「時習館」開校	●現在の子葉城町に屋敷を与える	●忠利・宮本武威を招き、	●加藤家が改易となり、細川忠利が肥後へ入国	●清正・50歳で死去	●息子忠広が2代藩主となる	●新城が完成し、隈本を熊本に改称	●関ヶ原の戦い。この頃大天守完成	●茶臼山に新城(熊本城)の築城着手	●隈本城の改修に着手	●加藤清正、肥後北半国 19万5千石の領主として隈本城に入る

熊本城 400 Years Of History

加藤清正とその時代

加藤清正によって築城された熊本城。本丸が完成した慶長12年(1607)に現在の「熊本城」の表記に改め、「銀杏城」の別名でも親しまれています。「武者返し」と呼ばれる反りのある高石垣や巧みな縄張といった独自の築城技術が特長で、その見事なつくりから日本三名城の一つに数えられています。

細川忠利とその時代

寛永9年(1632)、加藤家が改易され細川忠利が熊本藩主となりました。まず熊本城の修理を行い、城下の整備・拡張を進めました。また、藩校「時習館」を二の丸に開校するなど、文化・教育が花開いた時代でした。

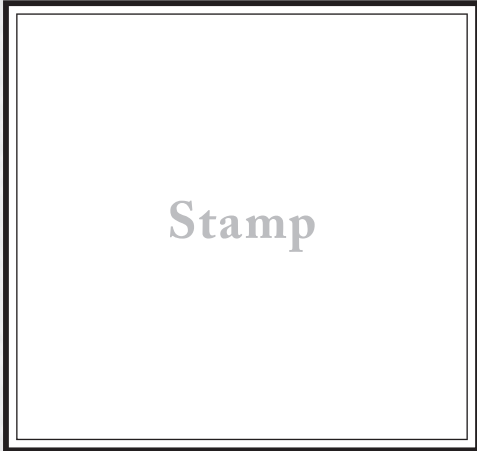
熊本城と近代

明治10年(1877)に起きた西南戦争開戦直前の火災で、天守や本丸御殿などが焼失。西郷隆盛率いる薩摩軍の猛攻にも耐えたことから「難攻不落の堅城」として全国で名を馳せました。

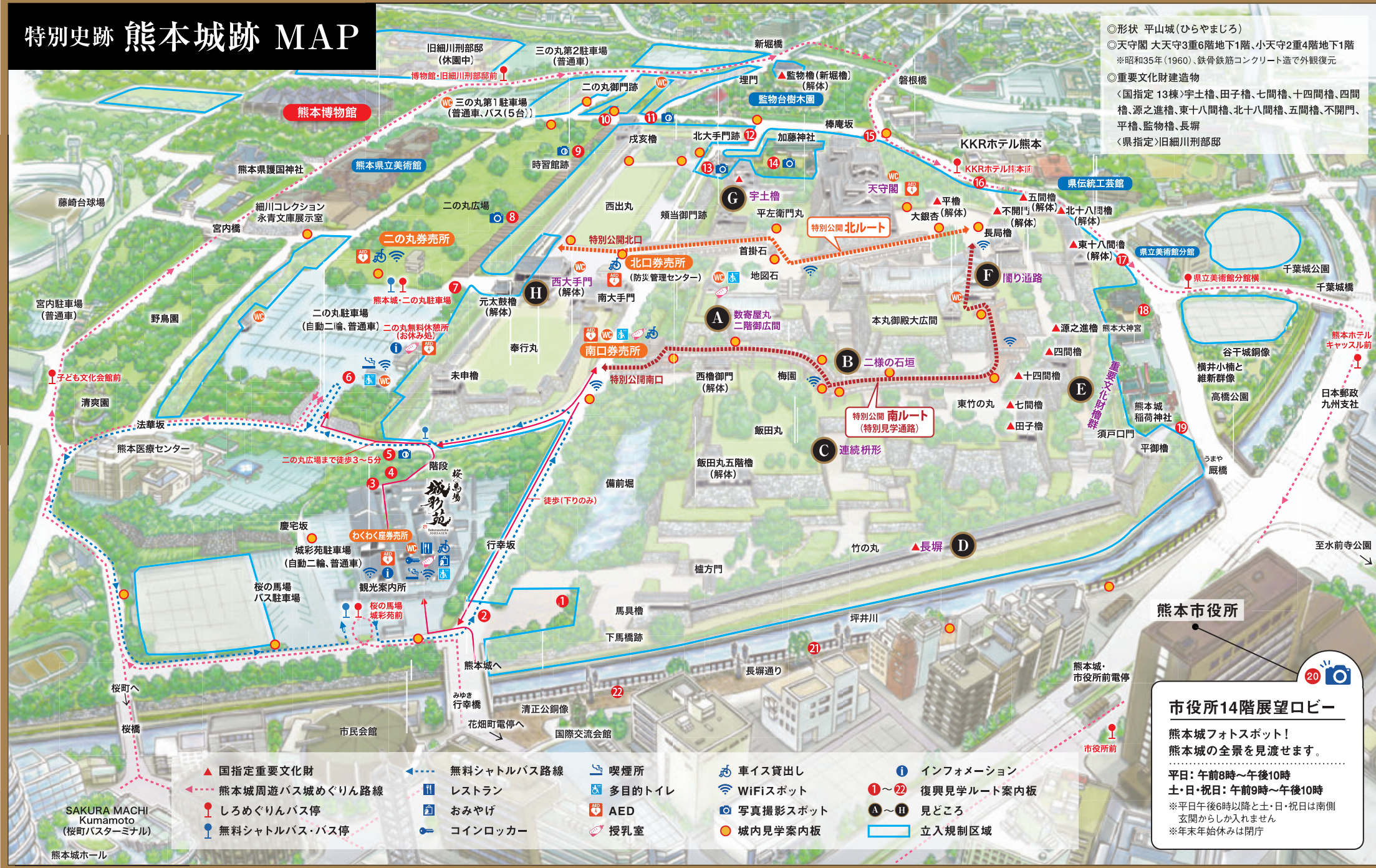
熊本城と現代

平成28年熊本地震では石垣の崩落や建造物の倒壊など、甚大な被害を受けました。令和元年(2019)に特別公開がスタートしましたが、復旧作業は現在も継続しています。

400 Years
Of
History



特別史跡 熊本城跡 MAP



- ◎形状 平山城(ひらやまじろ)
- ◎天守閣 大天守3重6階地下1階、小天守2重4階地下1階
※昭和35年(1960)、鉄骨鉄筋コンクリート造で外観復元
- ◎重要文化財建造物
〈国指定13棟〉宇土櫓、田子櫓、七間櫓、十四間櫓、四間櫓、源之進櫓、東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓、不開門、平櫓、監物櫓、長塀
〈県指定〉旧細川刑部邸

INFORMATION

熊本城 TEL.096-223-5011(熊本城運営センター)
午前9時～午後5時(入園は午後4時半まで)
【お願い】特別公開エリアでは、次のことにご協力をお願いします。

- 火気厳禁
- 全館禁煙
- ペットの入場不可
- ポイ捨て禁止

熊本博物館 TEL.096-324-3500
開館時間:午前9時～午後5時(入園は午後4時半まで)
休 日:月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

桜の馬場城彩苑
熊本城ミュージアムわくわく座 TEL.096-288-5600
開館時間:午前9時～午後5時半(入館は午後5時まで)

桜の小路(お土産・お食事処) TEL.096-288-5577
営業時間:お土産処 午前9時～午後7時(12月～2月は午後6時まで)
お食事処 午前11時～午後7時 ※土・日・祝前日は午後8時まで。夜は要予約 ※諸事情により変更する場合があります。

旧細川刑部邸 地震被害のため休園中

復興城主・災害復旧支援金
熊本城復旧・復元にご協力をお願いします。
ご寄付は熊本城ミュージアムわくわく座1Fロビーで受け付けています(現金のみ)。
詳しくは熊本城公式ホームページをご覧ください。

熊本城総合事務所
〒860-0806 熊本市中心区花畑町9-6
TEL.096-352-5900 FAX.096-356-5655

こちらをチェック!
(熊本城公式HP)

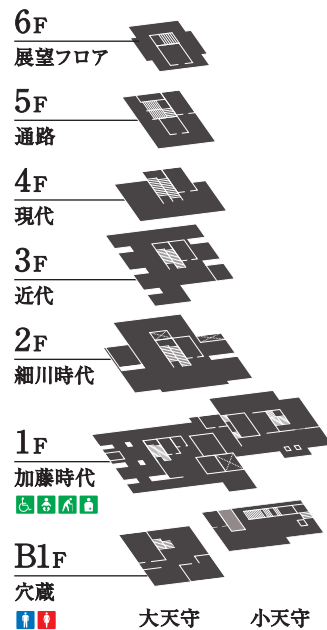
- ▲ 国指定重要文化財
- 熊本城周遊バス城めぐりん路線
- しろめぐりんバス停
- 無料シャトルバス・バス停
- 無料シャトルバス路線
- レストラン
- おみやげ
- コインロッカー
- 喫煙所
- 多目的トイレ
- AED
- 授乳室
- 車イス貸出し
- WiFiスポット
- 写真撮影スポット
- 城内見学案内板
- インフォメーション
- 1～22 復興見学ルート案内板
- A～H 見どころ
- 立入規制区域

市役所14階展望ロビー
熊本城フォトスポット!
熊本城の全景を見渡せます。
平日:午前8時～午後10時
土・日・祝日:午前9時～午後10時
※平日午後6時以降と土・日・祝日は南側玄関からしか入れません
※年末年始休みは閉庁

天守閣完全復旧・内部公開

明治10年(1877)、西南戦争開戦直前の火災で焼失した大小天守。昭和35年(1960)に鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された後、平成28年(2016)の熊本地震では瓦の落下や石垣の崩落、建物の一部損傷などの被害を受けました。復旧工事を経て、令和3年(2021)春に天守閣の復旧が完了。内部の一新された展示とともに、名城の雄姿をお楽しみください。

天守閣 フロアマップ



エレベーターのご案内

エレベーター利用者は下記の方に限ります。

・車いす利用者(介添者含む)

・階段の利用が困難な方

※エレベーター利用ご希望の方はスタッフにお声かけください。



穴蔵

B1F

天守閣の入口は、地階にある小天守の穴蔵。かつては台所として使われていました。石垣、井戸、石階段などの実物を見ることができます。



▲井戸

小天守

大天守



▲石階段



▲ダンパー

加藤時代

1F

▲加藤清正書状(複製)

「隈本城」の歴史や清正による新城築城、さらに忠広時代までを紹介。天守の構造やデザインのほか、河川改修や城下の整備など、加藤時代の城づくりと町づくりについて体感してください。



▲鯰瓦
宝暦13年(1763)銘
(熊本博物館蔵)

大天守



▲御上段模型(縮尺1/3)



▲天守シアター(難攻不落の城)



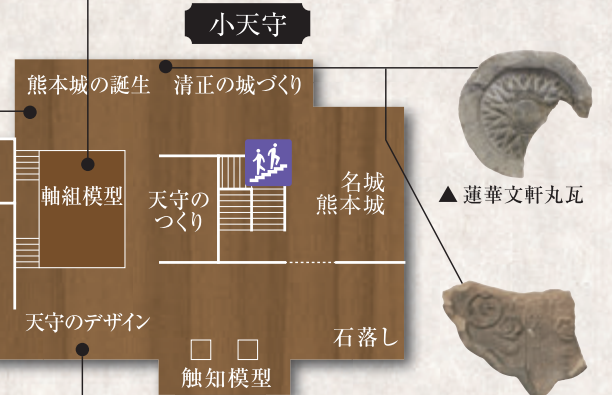
▲空中雪隠



▲天守破風原寸模型(縮尺1/1)



▲天守軸組模型(縮尺1/10)



▲蓮華文軒丸瓦



▲「慶長四年八月吉日」銘滴水瓦

細川時代

2F

細川家の入城後、さらに拡大する城下について模型や映像で解説。さらに城の維持管理や、武器庫としての天守について甲冑や火縄銃のレプリカを展示・紹介します。

城郭・城下模型 (縮尺1/500)

城の維持管理

細川家の入城

天守の使われ方

広がる城下

▲城郭・城下模型

▲黒鍔皮包紺糸射向 紅威二枚胴具足(複製)▲

現代

4F

熊本城の修理と復元や平成28年熊本地震の被害と復旧に関する展示のほか、復興城主デジタル芳名板があります。

復興城主 デジタル芳名板

よみがえる熊本城

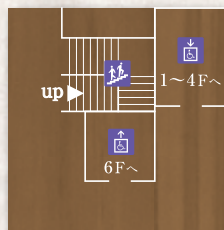
▲復興城主デジタル芳名板

▲天守閣被災状況再現模型

通路

5F

最上階へと続くフロアです。



展望フロア

6F

熊本の市街地を一望できる最上階。スマートフォンアプリのAR(拡張現実)機能を使って、明治初期の古写真を現代の景色に重ねて表示・閲覧できます。

展望フロア

▲展望(南面)

近代

3F

軍施設として使われた近代の熊本城について解説。西南戦争で焼失した天守や、明治22年の震災、昭和の修理や再建についても紹介します。

▲シヤター (昭和35年の天守再建)

明治22年熊本地震

西南戦争と熊本城

天守の再建

熊本城の明治維新

シヤター

▲火炎の激しさを物語る出土品

共通券対象施設

熊本博物館

KUMAMOTO CITY MUSEUM

こちらをチェック!▶



熊本への成り立ちや歴史・文化・自然に関する資料を収蔵・展示。加藤家と細川家、熊本城について、知識を深めることができます。地下にはプラネタリウムを併設。黒川紀章設計の建物も見えます。

桜の馬場 城彩苑

SAKURANOBABA JOSAIEN

こちらをチェック!▶



熊本城ミュージアム わくわく座

大迫力の熊本城VR映像をはじめ、多彩なコンテンツで熊本城の歴史文化を楽しく学べるミュージアム。



桜の小路

熊本県下から選りすぐりのお店が軒を連ねるお食事・お土産処。熊本の名産品や桜の小路オリジナル品などが購入できます。

バス利用案内

無料シャトルバス

城彩苑 ↔ 二の丸駐車場を約10~15分間隔で運行 (午前9時~午後5時 最終は二の丸発)

熊本城周遊バスしろめぐりん

午前9時から午後5時まで熊本駅前を発着口に、毎日熊本城周辺の観光地を結んで20~30分間隔で運行

	1回利用	1日乗車券
大人	160円	400円
小人	80円	200円

こちらをチェック!▶



熊本城公式アプリ

お手持ちのスマートフォンに「熊本城公式アプリ」をダウンロードしてください。

●アプリの機能

- ①天守閣常設展示の解説文や映像内容について、音声や字幕で楽しむことができます。*対応言語:日本語・英語・北京語・広東語・韓国語
- ②大天守6階の展望フロアにおいて、AR(拡張現実)の機能を用いて現在の風景に古写真を重ねて眺望を楽しむことができます。



熊本城公式アプリのダウンロードはこちらから▶



●アプリのダウンロード

上記二次元コードを読み込むか、App StoreまたはGoogle Playにて「熊本城公式アプリ」で検索・ダウンロードしてください。天守閣内では、フリーWi-Fiを利用したダウンロードが可能です。

料金案内

()の料金は30人以上の団体料金 ※未就学児は無料

熊本城

入園料		
小・中学生	300円	(240円)
高校生以上	800円	(640円)

年間入園券		
小・中学生		
高校生以上		

熊本博物館

入場料		
中学生以下	200円	(160円)
高校生・大学生	300円	(240円)
一般	400円	(320円)

プラネタリウム観覧料		
中学生以下	100円	(80円)
高校生・大学生	150円	(120円)
一般	200円	(160円)

*プラネタリウムの観覧には、入場料も必要

熊本城ミュージアムわくわく座

入館料		
小・中学生	100円	(80円)
高校生以上	300円	(240円)

共通券

熊本城・わくわく座2館共通券

小・中学生	300円
高校生以上	850円

熊本城・わくわく座・熊本博物館3館共通券

小・中学生	400円
高校生以上	1,100円